

の多数にのぼり、大阪大学三谷教授司会のもと実行委員長、作井、橋口両会会長の挨拶に始まり、各地から参集した会員諸氏の間で歓談がくりひろげられた。

(ジュニアパーティー)

昭和49年11月4日、午後5時30分より、近大本館地下食堂で開催された。参加者は150名の多数にのぼり、今回初めて参加者の中から、大橋徹郎(新日鉄)、篠田隆之(東工大)両氏に司会を依頼した。若手技術者、研究者を中心に自由に懇談がなされ、歌などもまじえて、互に親交が深められた。

見学会・婦人見学会

工学見学会は昭和49年11月6日日本金属学会と合同で、また婦人見学会は昭和49年11月4日に開催された。

1班 (株)神戸製鋼所加古川製鉄所	2班 住友電気工業(株)伊丹製作所、川崎製鉄(株)西宮工場
3班 新日本製鉄(株)堺製鉄所、日本伸銅(株)	4班 住友金属工業(株)和歌山製鉄所
婦人コース 奈 良	

書 評

日本金属学会編

「金属データブック」の書評

「〇〇便覧」、「××講座」は誰に読んで貰うために作られているのか。こんな質問に対して、これらの高価な本は専門の研究者や技術者にはあまり役立たないという答が返ってくると思います。日本語の本は日本人しか読めないとかあまり専門的な本は商業ベースにのらないとか、研究者や技術者が必要とする本の編集はきわめて難しいことなどが主な原因となつていよう。このデータブックは関係する人々がこれらの困難を乗り越えて完成したものであり、研究者や技術者の熱望に応える貴重なものと言えましょう。

本書は12章と変態図および状態図集、並びに付録から成り、1章は元素や結晶の基礎的な物性、2章は製錬関係で、熔融状態の金属、塩およびスラグの諸物性や熱力学的諸性質に関する代表的数値が挙げられている。3章は鉄鋼材料、4章は非鉄材料、5章は電気磁気材料、6章は原子炉材料、7章は焼結材料と続き、物理的性質や各種の実用的な諸性質が実に豊富に集められている。JISなど別に完備されたものが刊行されているものについては必要最小限にとどめられているというが、日常の研究業務には十分役に立つであろう。8章は試験、測定で、顕微鏡観察、非破壊検査、分析、単位、X線、電子線回折など、9章は溶接、10章は加工、11章は材料力学、12章は材料試験となっている。変態図および状態図集では鋼の焼入性曲線、恒温および連続冷却変態図、金属合金の状態図、無機化合物の状態図に分けて、おそらくは1000にもおよぶであろうと思われる多数の図面が収められ、状態図には簡単な解説が後にまとめられている。

非常に多方面にわたっているため、製錬その他、一部には十分な数値の収録されていないうらみはあるが、このすばらしいデータブックの編集出版に関係された人々の努力と勇気に表敬するとともに、機会がありましたならば、より完全なものを完成されるよう強く希望しておきます。

(郡司好喜、田中良平)

A5版 485頁、昭和49年 定価 5500円 丸善